

MAIL ALLOTMENT SYSTEM

Publication number: JP4273354 (A)

Publication date: 1992-09-29

Inventor(s): TONE TAKESHI

Applicant(s): NIPPON ELECTRIC CO

Classification:

- international: G06F13/00; G06F13/00; (IPC1-7): G06F13/00

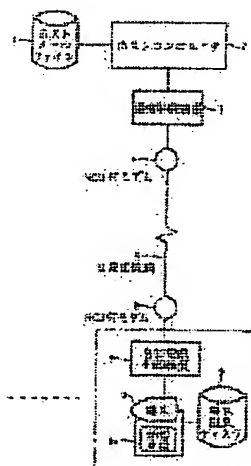
- European:

Application number: JP19910077412 19910227

Priority number(s): JP19910077412 19910227

Abstract of JP 4273354 (A)

PURPOSE: To allot the mails under the control of a host computer despite an unmanned state of the terminal side by applying automatically a power supply at the terminal side with the dialing of the host computer and performing a log-in operation for connection of a session. **CONSTITUTION:** The mails transmitted from another terminal are once stored in a host mail file 1. A dialing request is given to a MODEM 4 containing a network control unit NCU (network control unit) and provided at the computer 2 side from this computer 2 via a communication controller 3 at a certain time point, e.g. at night. The MODEM 4 actuates a ringer of a MODEM 6 containing an NCU provided at a terminal 8 side. A signal is transmitted to an automatic power unit 7 from the MODEM 6 and the power supply of the terminal 8 is applied for connection of a circuit. At the same time, a log-in operation is automatically carried out for connection of a session. Then the mails are automatically received from the terminal 8 side and the mails transmitted from the file 1 are received by a terminal magnetic disk 9.



Data supplied from the esp@cenet database — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平4-273354

(43)公開日 平成4年(1992)9月29日

(51)Int.Cl.⁵
G 0 6 F 13/00

識別記号 庁内整理番号
3 5 1 G 7368-5B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平3-77412

(22)出願日 平成3年(1991)2月27日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 刀 棚 剛

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株
式会社内

(74)代理人 弁理士 井出 直孝

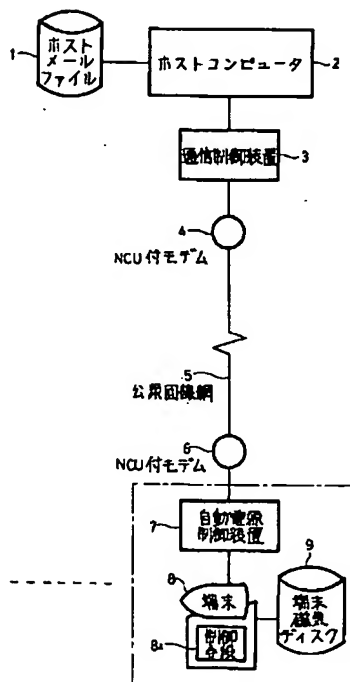
(54)【発明の名称】 メール配信システム

(57)【要約】

【目的】 ホストコンピュータ主導で端末側が無人状態であっても端末相互間のメール配信をできるようにする。

【構成】 ひとつのホストコンピュータと公衆回線網を介して複数の端末が接続されたメール配信システムにおいて、ホストコンピュータがメールを受信したときに、配信先端末を確認してダイヤリングさせ、このダイヤリングにより送信先端末との回線を接続させ、配信終了後電源を切断して回線の接続を断状態にする。

【効果】 昼間ホストコンピュータに着信したメールを夜間送信先端末に配信することができる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ホストメールファイルおよび通信制御装置を備えたホストコンピュータと、端末磁気ディスクを備えた複数の端末とが公衆回線網を介して接続され、一つの端末から他の端末に配信するメールが前記ホストメールファイルに一時蓄積されるメール配信システムにおいて、前記ホストコンピュータに、前記複数の端末のいずれかからメールを受信したときに、そのメールの宛先端末を確認してダイヤリングさせる手段と、前記公衆回線網が接続されたときに、前記ホストメールファイルに格納されたメールの内容を取り出し送出する手段とを含み、前記複数の端末のそれぞれには、前記ホストコンピュータからの制御によりホストコンピュータから送信されたメールを自動的に前記端末磁気ディスクに記憶させる制御手段を含むことを特徴とするメール配信システム。

【請求項2】 前記複数の端末それぞれに、回線接続または回線切断にしたがって電源の投入または電源の切断を行う自動電源制御装置を備えたことを特徴とするメール配信システム。

【請求項3】 前記端末の制御手段は、前記自動電源制御装置が電源を投入した後に前記ホストコンピュータにログインし、セッション接続を行い、メール受信を完了したときに、ログアウトしてセッション切断を行う手段を含む請求項2記載のメール配信システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ホストコンピュータを介しての端末間のメール配信に利用する。本発明は、ホストコンピュータ主導で端末側が無人状態であってもメール配信ができるコンピュータシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、ホストコンピュータを介して端末間でメールの授受を行うには、自端末宛のメールを受け取る場合、まず、ホストコンピュータに接続されたNCU（網制御装置）付きモデムへ端末側NCU付きモデムから通話し、通信開始後にログイン操作によりセッション接続を行っていた。

【0003】セッション接続が行われた後は自端末宛にメールが到着しているか否かを確認し、メールが到着している場合には端末に接続されている磁気ディスクにメール情報を取り込み、メール受信作業が終了したときに、ログアウト操作によりセッションの切断を行っていた。その後、端末側NCU付モデムからホストコンピュータ側NCU付モデムに対し回線切断要求を送出し回線切断を行っていた。

【0004】このように従来技術では必ず端末側から要求を送出する端末主導型になっており、端末側に人手が必要であった。

【0005】

2

【発明が解決しようとする課題】上述した従来のホストコンピュータを介したメールの授受の際の自端末宛メールを受信する場合には、必ず端末主導となり人手を要するため、例えば、昼間ホストコンピュータに到着したメールをホストコンピュータ側で処理し夜間に相手端末へ配信することができない問題を有していた。

【0006】本発明はこのような問題を解決するもので、ホストコンピュータで処理されたメールを夜間自動的に配信することができるシステムを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、ホストメールファイルおよび通信制御装置を備えたホストコンピュータと、端末磁気ディスクを備えた複数の端末とが公衆回線網を介して接続され、一つの端末から他の端末に配信するメールが前記ホストメールファイルに一時蓄積されるメール配信システムにおいて、前記ホストコンピュータに、前記複数の端末のいずれかからメールを受信したときに、そのメールの宛先端末を確認してダイヤリングさせる手段と、前記公衆回線網が接続されたときに、前記ホストメールファイルに格納されたメールの内容を取り出し送出する手段とを含み、前記複数の端末のそれぞれには、前記ホストコンピュータからの制御によりホストコンピュータから送信されるメールを自動的に前記端末磁気ディスクに記憶させる制御手段を含むことを特徴とする。

【0008】前記複数の端末それぞれに、回線接続または回線切断にしたがって電源の投入または電源の切断を行う自動電源制御装置を備え、前記端末の制御手段は、前記自動電源制御装置が電源を投入した後に前記ホストコンピュータにログインし、セッション接続を行い、メール受信を完了したときに、ログアウトしてセッション切断を行う手段を含むことが望ましい。

【0009】

【作用】ホストコンピュータが一つの端末から他の端末に配信すべきメールを受信したときに、そのメールを一時格納し宛先端末を確認して通信制御装置にダイヤリングさせる。このダイヤリングにより回線接続が行われると、送信先端末の自動電源制御装置が自動的に電源を投入し、自動的にログインを行いセッションを接続する。この接続によりメール受信が行われる。すべてのメールの受信が終了したときに、自動的にログアウト操作を行いセッションを切断し、その後、自動電源制御装置の電源を切断する。

【0010】これにより、ホストコンピュータ主導で端末相互間のメール配信を端末側が無人状態であっても行うことができ、夜間に一括し所定の端末にメールを配信することができる。

【0011】

【実施例】次に、本発明実施例を図面に基いて説明す

3

る。図1は本発明実施例の構成を示すブロック図である。

【0012】本発明実施例は、ホストメールファイル1および通信制御装置3を備えたホストコンピュータ2と、端末磁気ディスク9を備えた複数の端末8とがNCU付モデム4、6および公衆回線網5を介して接続され、一つの端末から他の端末に配信するメールがホストメールファイル1に一時蓄積され、ホストコンピュータ2に複数の端末8のいずれかからメールを受信したときに、そのメールの宛先端末を確認してダイヤリングさせる手段と、公衆回線網5が接続されたときに、ホストメールファイル1に格納されたメールの内容を取り出し送出する手段とを含み、複数の端末8のそれぞれには、ホストコンピュータ2からの制御によりホストコンピュータ2から送信されたメールを自動的に端末磁気ディスク9に記憶させる制御手段8aを含み、さらに、複数の端末8それぞれに、回線接続または回線切断にしたがって電源の投入または電源の切断を行う自動電源制御装置7を備え、端末8の制御手段8aは、自動電源制御装置7が電源を投入した後にホストコンピュータ2にログインし、セッション接続を行い、メール受信を完了したときに、ログアウトしてセッション切断を行う手段とを含む。

【0013】次に、このように構成された本発明実施例の動作について説明する。

【0014】他の端末側から発信されたメールは、一旦ホストコンピュータ2のホストメールファイル1へ格納される。ホストコンピュータ2側ではホストメールファイル1に蓄積されたメールをある時点（例えば夜間）に一斉に端末8側へ配信される。

【0015】まず、ホストコンピュータ2から通信制御装置3へどの相手端末と通信するかを通知する。通信制御装置3はホストコンピュータ2側のNCU付モデム4へダイヤル要求を行う。ホストコンピュータ2側のNC

4

U付モデム4は公衆回線網5を介して端末8側のNCU付モデム6のリンガ（ベル音）を鳴らす。この時点で端末8側のNCU付モデム6から自動電源制御装置7へCi信号が送信され、これを機に端末8の電源が投入され回線が接続される。また、この時点で自動的にログインが行われセッション接続が行われる。

【0016】次に、端末8側からメール受信処理が自動的に動作しホストメールファイル1から送信されたメールを端末磁気ディスク9へ受信する。全てのメールを受信完了した時点で端末8側から自動的にログアウト操作が行われセッションが切断される。また、このとき自動電源制御装置7に対してER信号の送出を止めるために自動電源制御装置7が端末8の電源を切断する。この電源切断と同時に回線が切断される。

【0017】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、ホストコンピュータを介してメールの授受を行うコンピュータシステムで、端末側でメールを受信する際に、ホストコンピュータ主導で端末側に人手が無くてもメールの受信が可能となり、夜間に一括してホストコンピュータから端末にメールを配信することができる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明実施例の構成を示すブロック図。

【符号の説明】

- 1 ホストメールファイル
- 2 ホストコンピュータ
- 3 通信制御装置
- 4、6 NCU付モデム
- 5 公衆回線網
- 7 自動電源制御装置
- 8 端末
- 8a 制御手段
- 9 端末磁気ディスク

【図1】

